

## 第9回

## TALK &amp; TALK

## 資材部会長・山田 二郎氏に聞く

各部会との交流で理解を深め  
共同研究を通じ、より良い車造りを

聞き手・(社)日本自動車車体工業会

事務局長 関口 浩

今回は、当会の資材部会長である三國工業株式会社特別常勤顧問・山田 二郎氏に当部会のこと、我が国の山岳会のことなどについて、いろいろとお話を伺いました。

氏は、昭和22年・慶応義塾大学経済学部を卒業。同年5月・配炭公団に入団。28年8月・三國商工株式会社（現・三國工業株式会社）入社。45年5月・取締役総務部長。49年5月・常務取締役総務部長。53年1月・ミクニアメリカン取締役社長。54年6月・三國工業（株）専務取締役営業本部長。平成1年6月・常勤特別顧問として現在に至っています。

また、氏は大学在学中、慶応山岳部に入部後、日本山岳会入会。27年4月・同会理事。28年3月・日本山岳会マナスル遠征隊参加、7750mまで到達。29年3月・同会マナスル遠征隊参加。35年3月・慶応義塾創立100年記念ヒマルチュリ遠征隊に隊長として参加し、初登頂に成功。54年・日本・ネパール協会評議員。文部省登山研

修所運営委員。日本山岳会評議員、副会長を経て、平成1年5月・日本山岳会会長に就任、現在活躍中です。

\*

関口事務局長・山田部会長の部会長就任は昭和55年とのことです。これは歴代の資材部会長の中では最も長い期間就任して頂いております。その間、多数の準会員を統括して当初はバス部会を中心にした活動でしたが、最近では他の部会へも広く働きかけ活発な部会運営をされています。本日はこの辺のところを含めて、これからの資材会についていろいろとお伺いできればと思います。

山田資材部会長・資材部会は他の部会と会員の構成が若干違っている。他の部会は会員がだいたい同業で占められているが、資材部会は全てではありませんが、あらゆる職種の方々がいるということ。ですから例えば全体の利益を考え、どうしたらいいのかという時、なかなかのが絞られきれない

という感じ。カーペット関係とか塗装関係とかいうことだと、それぞれ共通の話題があってやりやすいわけですが、全部のこととなると焦点定まらず、というのが偽らざる心境です。

しかし、会員の方々のアンケートなどを読ませていただきますと、資材部会に入会したおかげで、情報なども新しいものが入手できたりするのでよかったとか、会員同士の交流・親睦、研修といったような点で役立つと同時に期待していただいているようですので、当会の共通項はその辺りのことなのかと考えております。

後は個々のテーマでの準会員・正会員との共同研究とか交流などが求められるものではないかと思えます。これからも力をいれてやっていきたいと思えます。

例えば従来から行われているバス部会との共同研究のみに留まらず、もっと幅広く他の部会ともそういったことが出来るのではないかと思えます。テーマもあるのではないのでしょうか。そういった点でわれわれの方から積極的にアプローチしていくとか、あるいはテーマをいただいて一緒に行うとか、他の部会ともっと活発にやっていきたいと考えています。

関口・工業会の会員構成からみますと準会員が正会員を含めた全体の3分の1の100社になっています。そういった意味で、事務局としてもそれぞれの部会に橋渡しの働きかけをしていかなければと考えております。

山田・日本の自動車世界でこれだけ高い評価を得ているということは、我田引水になるかもしれませんが、その自動車を構成している部品の品質の評価でもあると言いうことができるわけです。われわれ部品メー

カーの部品が高品質であるから、部品メーカーがしっかりしているからであると言えるわけです。（笑い）

もちろん品質などではメーカーの指導があったから良くなったということですが、ですから誇りと責任を持たねばということですね。

関口・そういった意味でも資材部会というものをもっともって理解していただくようにしていきたいですね。

山田・だいぶ前のことでしたが、総会で資材費の低減を図るようというような話。他の部会から出されたことがありましたが、資材部会としてはそういった点でも、ある程度分をわきまねばならない点と、ある意味では部会員の立場と利益を考えていかねばならない点もあるわけですから、先程の話にもあった共同テーマとして解決の道を見付けだし、車としてお客さまに満足していただけるようにしていかなければと考えています。

\*

関口・話は変わりますが、部会長は日本山岳会の会長を務められているわけですが、かつてはマナスル登山隊にも参加され、8152mの山頂を目指し、7750mまで到達されたのははじめ、ヒマルチュリ遠征隊では隊長として初登頂に成功されるなど、大変立派な足跡を刻まれてきています。

そこで、登山についてのお話も承れたらと思えますが、現在でも登山をつづけておられますか。

山田・はい。つづけています。一昨年でしたか、モンブランに、おだてられて登りにいきましたが、お蔭様で登れました。関口・始められたのはいつ頃からですか。

## TALK &amp; TALK



山田部会長

山田・そもそもはと言いますと私が中学生の頃、兄が慶応の山岳部におりましたもので、その兄に連れられ、いろいろと登り歩いたのがきっかけということでしょうか。

小学生の頃に杉並の学校から遠足で奥多摩の御岳に行った時でしたが、その時は苦しくて途中でいやになり、もう金輪際山などには行くまいと決心していたんですがね。(笑い)

関口・昭和28年のマナスル遠征は、当時としては大変な話題を呼びましたが、海外遠征はこの時がはじめてでしょうか。

山田・登山をはじめから最初の海外遠征でしたが、当時はまだ戦後の復興期でしたので準備が大変でした。

またその前年に偵察隊が出たわけですが、この偵察隊の準備も手伝いました。当時はテントを作るにしろ今と違って良い生地はないし、アノラックスもそれはお粗末

なものしかできず偵察隊員に苦情を言われました。

この頃、フランスがアンナプルナという8000m級に人類初登頂したわけですが、その時のフランス隊の装備はナイロンの素晴らしいものを使用していました。

これには日本の繊維メーカーなどが大分協力しましたので、われわれの装備も年々改良され、29年・30年の遠征には、そういったメーカーの協力もあり、当時としてはまああの装備にはなったと思っています。

そして日本の経済力が上昇するに従って装備も毎回向上していきました。31年のマナスル登頂成功の時には、装備も格段の進歩がありました。

酸素ボンベなんかでも、28年には8割がたインド洋上で抜けてしまっていて、結局酸素なしで登りました。7750mまでの時は行きましたが苦しかったことは苦し

かったが、若かったせいも頑張れましたね。しかし頂上を目の前にしながら、このまま行つては夜になってしまふからということで断念せざるを得なかったのは残念でした。

6500mぐらいまでは体が慣れてくれるのでいいんですが、それ以上になると体力の消耗も激しくなりますね。

関口・頂上を目前にしながら引き返すという決断を下すことは、大変なことでしょうかね。

山田・あの時は3名でアタックしたわけですが、慶応で2年先輩の加藤というリーダーがおりまして、そのリーダーを中心に相談し止むを得まいということを下りることにしたわけですよ。

そこで写真を撮ろうということですが、シャッターを押すのには息を止めなければいけないでしょう。息を止めたら苦しくてね。長くは構えていられませんでした。

関口・そうしますと三国工業に入社されたのはその後になるわけですか。

山田・昭和28年の登山隊候補に選ばれた時に三国工業の先代社長の面接を受けまして、そういうことなら山に行つてきなさい。五体満足で帰ってきたら採用しますよというので、8月に入社したというわけですよ。

ところが入社した翌年には、第2次隊が出るということでもまた休暇を貰うということになりまして(爆笑)。有難いことでした。

まあいろんな経験をさせて頂きました。関口・そう考えると会社経営の中にもそういうのがきちんと生きるんですね。

山田・そうですね。

資材部会でお話した時も山登りつてのいろいろな解釈がある。ある面では安全の限界に挑戦するスポーツだと思ふ。だから100%の安全を求めらるなら、山へ行かなければいい。山へ行つても安全に帰つてこようという、危険限界ストレスのそれが一番スマートな山登りになるんですね。

安全率が多すぎるのはあんまりかっこいい山登りじゃないでしょう。非常に難しいところを体力、準備を万全に整えてどれだけ限界ギリギリでいけるか、ということにチャレンジするスポーツですから。そういう意味では危機管理ですか。いざという時にどうするんだということを始終叩き込まれました。自然相手だから何が起るかかわからない。安全限界に挑戦する。山登りではアプノーマルなことがノーマルだと。まさか起るまいということが起こっても、それが当たり前と思って準備しないとね。まさかのが起きたから失敗しました、というんではもうだめだよ。

関口・大変参考になるお話を承りました。まだまだ山のお話やマイコンのお話などいろいろとお伺いしたいところですが、紙面の都合がありますので、最後に部会長の健康法などについてお話しください。

山田・ボケ防止にはマイコンはいいですね。配炭公団にいた頃、英文タイプを正式に習った関係でキーボード・アレルギーは完全にありませんでしたので容易に馴染むことができました。

健康法は何といつても登山です。そう高い山ではありませんが、今でも年間通じて13〜14回ぐらいは山に通っています。

関口・本日はご多忙のところ有り難うございました。